

別冊 「時ノ寿の森クラブ活動予定表<12~3月>」

別冊 「いのちを守る『希望の森づくり』プロジェクト 事業報告書」

<もくじ>

★ 冬号に寄せて . . . . . 2

★ 活動報告 9/30 大浜中学校植樹祭に 400 人参加 . . . . . 2

10/19・20 千浜海岸防災林・国安海岸防災林植樹祭 1200 人参加 . . . 3

★ 冬の行事案内 \* 別冊の「活動予定表 12~3月」を参照ください。

12月14日 2013年納会

12月22日 大掃除昼食会

1月5日 2014年初山

★ 時ノ寿ブログより

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 9月23日「人生と向き合う箱根路」             | 4  |
| 9月24日「里山にヒガンバナ」               | 5  |
| 9月29日「森は人を和やかにする」             | 5  |
| 10月1日「国挙げて地球温暖化対策を」           | 6  |
| 10月6日「林野庁長官賞を受賞」              | 6  |
| 10月9日「緑の基本計画」                 | 7  |
| 10月10日「49年前の10月10日を想う」        | 7  |
| 10月14日「川内村植樹祭は原点」             | 8  |
| 10月21日「森づくりを未来につなげる交流会」       | 9  |
| 10月24日「多くの方から評価の声」            | 10 |
| 10月27日「里山の生物多様性を守る」           | 10 |
| 11月7日「ブルータスよお前もか」             | 11 |
| 11月11日「全国森づくり発祥地を拓くいのちを守る道普請」 | 11 |
| 11月16日「小学生と一緒に森づくり」           | 12 |
| 11月17日「山を再生するとは」              | 13 |
| 11月20日「働くことの尊さ」               | 13 |
| 11月24日「ぼんやりの価値とは」             | 14 |
| 11月25日「ぼんやりから生まれる文章とは」        | 15 |

## ＜冬号に寄せて＞

今年も、あと1月足らずとなりました。近年、師走を迎えて思うことは、年々拡大している異常気象に伴う自然災害の脅威です。今夏も、梅雨明けと同時に日本列島は猛暑に包まれ、その現象は各地で10月初旬まで続きました。そして、大雨による水害や突然発生する竜巻も、日本各地どこで起きても不思議ではないこと、さらに過去経験した規模を遙かに超えた威力で襲ってくるということを、他人事ではなく、誰もがわが身のこととして実感したことと思います。

このような状況の中で、時ノ寿の森クラブが7年前に掛川市北部山間地の廃村集落跡でスタートした森林再生活動は、とても大きな意義があると思います。汗と泥にまみれながら、ここまで支えて来てくれた会員の皆様に感謝を申し上げます。また、日本財団のご支援により市民・企業・行政の協働による「いのちを守る『希望の森づくり』プロジェクト」が昨年始まり、本年10月には掛川市内7カ所・62300本の植樹を完了することができ、今後さらに市民・企業・行政が連携し、この森づくりが推進されていくこととなりましたことは喜ばしく、感慨無量です。関係各位に心から感謝を申し上げます。

これからも時ノ寿の森クラブは、森づくりトップランナーとしての使命をしっかりと受け止め、社会に責任を果たし、併せて活動理念の「近者喜ばば 遠者来る」を忘れることなく、森づくりを楽しく続けていきたいと思っています。

一年の締めくくりとして、会員の皆様及びご支援いただいた関係各位に心から感謝を含め、通信30号を発行いたしました。ご多忙とは存じますが、つかの間のお時間を見つけ、ご笑覧いただければ幸いです。では、よいお年をお迎えください。

理事長 松浦成夫

## ＜活動報告＞

### 大浜中学校に広葉樹 1000 本の「希望の森」が誕生！

秋晴れの下で400人が土地本来46種類・1000本の苗木を植える

日本財団の助成により昨年から始まった「いのちを守る・希望の森づくりプロジェクト」です。全7ヶ所・総数62000本を掛川市内に植樹するうち、今回、5ヶ所目・50000本に達しました。植樹を通じ、中学生も地域住民も、「地震だ！津波だ！逃げろ！」の意識を持ち、「狼少年」にならないように、常に先頭に立って行動してもらいたいと思います。





## 「いのちを守る・希望の森づくり」プロジェクト第6・7弾

### 津波から生命を守る「希望の森づくり」

### 海岸防災林2カ所に 12000 本を植樹！

日本財団助成事業「いのちを守る『希望の森づくり』プロジェクト」としては、フィナーレとなる植樹祭が 19・20 日の両日、延べ 1200 人が参加し、掛川市の海岸防災林で開催しました。これにより掛川市内には、森づくりによる安心安全な都市づくりのシンボルとして、7カ所・延べ 62300 本の「希望の森」が完成しました。しかし、未来の子どもたちのための「森づくり」としては一里塚で、交響曲で言えば第一楽章です。今回の掛川市の事例が市内外に広がり、市民・企業・行政の協働による森づくりが各地で進んでいくことを願っています。1 年半にわたる大プロジェクトの原動力となっていたいただいた、時ノ寿の森クラブの会員、田旗造園建設株式会社の皆様に感謝を申し上げます。

#### < 19 日開催 千浜海岸防災林希望の森づくり植樹祭 >



#### < 19 日夜開催 森づくりを未来につなげる交流の夕べ >



#### < 20 日開催 国安海岸防災林希望の森づくり植樹祭 >



## <時ノ寿ブログより>

2013 年 9 月 23 日(月)

### 人生と向き合う箱根路

初めての箱根湯元温泉でした。長い歴史の中で栄枯盛衰の多くの場面を演出してきた同温泉だが、名も知れない還暦を迎えようとしている一人のサラリーマンの心も体も癒してくれました。51歳のときには、それまで仕事に熱中してきたあまり思い上がりや虚栄心、独りよがりが強くなっていく自分を反省し、自分の生き方に向き合うために、歩き遍路に出たことを思い出しました。あのときの「歩き遍路」は、自分にとってこの10年間の精神的な支えの一つになっています。



今回の箱根路は、妻、息子・娘たち四家族の12名の旅でした。60歳の私にとっては、これまで歩んで来られたのは多くの皆様からいただいた有形無形の支えのお蔭です。あらためて心より感謝をいたします。そして、何といたってもその第一は親・兄弟であり、妻であり、子・孫です。その家族に感謝をしながら、人生と向き合う最高の時間を過ごしました。

そして、ニッポンをウォッチングすることもできました。今年は日本への海外観光客数が、目標1千万人を大きく上回りそうで、来年からは目標を2千万人にする動きがあるという報道を先日聞きましたが、海外の観光客の多いのには驚きました。箱根は、昔も今も国内ナンバーワンの観光客数を誇る地だと思いますが、世界遺産の富士山をバックに真っ青な芦ノ湖を滑る遊覧船は、海外の人たちには最高のスポットなのでしょう。便は超満員でしたが、そんなスポットの一方で、湖畔には日本人の目にも外国人の目にも重厚な歴史を感じさせてくれる数百年の年輪を刻む杉並木が、数百mも残っているのです。そんな杉並木の散策は、まさに悠久の時空を感じさせてくれると言ってもいいかもしれません。

しかし、残念な現象を体験してしまいました。杉並木と並行して走っている国道を、若者たちのバイク集団が爆音をとどろかせて往来しているのです。3歳と5歳の孫たちも耳をふさいでしましたが、「子供たちに恥ずかしいよ」と言ってやりたかったですね。世界に誇る素晴らしい温泉宿や名峰富士を眺められる観光地は、日本の大切な財産です。それらは、自然と共生する私たち日本人一人一人が意識して守っていかなければ、その価値は継承されていきません。

海外入込客2千万人の目標もいいですが、その前に観光地の実情を国の役人や政治家はどれだけ知っているのでしょうか。観光分野に限らず、次代を担う子や孫たちが夢と希望に向かって努力したならば、その努力が報いられる国内・国際社会になってほしいと切望します。

人生に向き合ういい旅をさせてもらいました。計画から、そして2日間を共にしながら演出をしてくれた息子・娘家族たちに心から感謝します。



**2013 年 9 月 24 日(火)**

### **里山にヒガンバナ**

季節も暦を知っているかのように、彼岸を境に急に秋が深まっています。あたり一面に咲き乱れるヒガンバナは、大地の中から突然に茎が伸びて来て花を咲かせ、花が散ると根元から葉っぱが芽を出すという、奇妙な性質を持った植物です。彼岸に咲く花からヒガンバナと名付けられたのですが、植物の正式名は曼珠沙華だそうです。



秋の訪れを真っ赤な花で人々に告げ、秋の彩りのトップバッターと言えます。真っ赤な花が里山一面に咲いている景色は見事というしかないのに、なぜか従来は、人々の間でヒガンバナの美しさがクローズアップされなかったように思います。

そんなヒガンバナを、荒廃農地に植えてみようと思っていたら、妻にまた何か企んでいるんでしょうと、見透かされてしまいました。今、市内の荒廃農地は、どんどん拡大していて、里山のそのほとんどは再生困難な状況にあります。そんな里山を、土地本来のヒガンバナの群生地にするには、自然に逆らうことではないと思います。科学の力や人の労力を出来る限り費やさずに、かつ経費を掛けずに里山の保全を持続して行く方策を真剣に考える必要があります。

**2013 年 9 月 29 日(日)**

### **森は人を和やかにする**

昨日のうちに、大浜中学校植樹祭の準備が終了したので、きょうは久しぶりの時ノ寿の森での活動でした。会員が18名も参加してくれ、時ノ寿の活動するのも久しぶりでした。建築中の時ノ寿工房に水道管を埋設する作業でしたが、わがクラブにはあらゆる経験と技術を持ったメンバーがいるため、何でも出来てしまいます。



ユンボを操る人、つるはしを振り上げる人、鎌で草を刈っていく人などいいコンビネーションです。そして、何と言っても時ノ寿の森に抱かれながらの作業は、重労働であっても気持ちがいいのです。汗をかいた後の「いっぷく」のお茶や甘いお菓子の美味しいことは、森での作業を経験した人でしか味わえない妙味でしょう。写真に写っているメンバー一人一人の穏やかな顔、最高ですね。

このチームワークにより、総延長90mの水道管を埋設してしまいました。明日は、大浜中学校の植樹祭です。未来を担う中学生たちには、本物の森づくりの大切さを実感し、これからの歩み方の参考にしてもらいたいと思います。

2013 年 10 月 1 日(火)

## 国挙げて地球温暖化対策を

きょうから 10 月、厳しい残暑にも別れを告げ、秋の気配を感じさせるこの頃となりました。しかし、四国地方で記録した 41℃ という最高気温を筆頭に、7 月～9 月まで続いた灼熱の今夏の異常を忘れてはいけません。また、狭い国土なのに、「過去経験したことのない」と言われるような記録的集中豪雨が各地で続く一方で、隣の地域では記録的な少雨による水不足が起きているのです。そして、過去の経験からはおよそ日本の自然災害とは思えない大規模な竜巻が、各地で頻発しています。昔なら 10 月に入れば台風からも別れてホッとすることはありますが、今も本州南海上では台風が頻発しているようです。



今年のように国民が等しく、あらゆる自然災害に対して脅威を感じ、自らの地域の安心安全を危惧したことは初めてではないでしょうか。そして、これらすべての不安の原因が「地球温暖化」にあるということを、国民一人ひとりが実感したことも初めてのことだと思います。痛い目を見たり不安におののかなければ、自らが主体的に行動しないのは悲しいことですが、人間にとって地球温暖化対策はまさに焦眉の急です。

今年のように国民が等しく、あらゆる自然災害に対して脅威を感じ、自らの地域の安心安全を危惧したことは初めてではないでしょうか。そして、これらすべての不安の原因が「地球温暖化」にあるということを、国民一人ひとりが実感したことも初めてのことだと思います。痛い目を見たり不安におののかなければ、自らが主体的に行動しないのは悲しいことですが、人間にとって地球温暖化対策はまさに焦眉の急です。

折しも、掛川市議会 9 月定例会が本日閉会しましたが、多くの議案を議決した最後に、議員発議による「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書」を衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣ほか関係大臣に対して提出することが、満場一致で採択されました。

一昨日、掛川市立大浜中学校において、生徒 303 人と地域住民が力を合わせて植樹した「希望の森づくり」は、遠州灘沿岸の津波の脅威を防止する役目があります。このことは、未来の子どもたちの生命を地球温暖化の脅威から守るという第一歩であるということ、中学生や地域住民のみなさんに感じてもらいたいと思います。

私たち時ノ寿の森クラブは、平成 20 年から今日まで荒廃森林の間伐を 161ha、そして広葉樹の植林を昨日までに 6 万 1 千本実施しました。

2013 年 10 月 6 日(日)

## 林野庁長官賞を受賞

GTF グレータートウキョウフェスティバル実行委員会主催によるグリーンチャレンジデーが、昨日から新宿御苑で開催されています。このイベントは、生物多様性を意識するための様々なチャレンジを応援する日として開催されています。企業・自治体・団体の環境保全活動を応援し、市民一人一人が環境について考え、アクションを起こすことを応援しています。それを象徴する場として、都心にありながら広大で豊かな自然を持つ新宿御苑を会場に、多数の官庁・企業・団体・市民が一丸となり、本イベントが開催されているのです。そんな素





晴らしい趣旨、かつ大きなスケールのイベントに、今日初めて参加しました。あらためて東京のすごいエネルギーを感じるとともに、物ごとを社会に広げて行くためには、地方から東京に向けて発信することが大事だということを、目のあたりにしました。

そのようなすごいイベントの中で、私たち「時ノ寿の森クラブ」は、環境保全につながる「間伐・間伐材利用コンクール・市民参加の森林づくり部門」において、林野庁長官賞を受賞いたしました。今までの静岡県掛川市における森林再生の実績が、本実行委員会によって認められたのです。身に余る光栄なことです。本実行委員会及び林野庁に御礼申しあげます。

このたびの受賞は、大きな誇りとしつつ、おごることなく、初心を忘れず、未来の子どもたちにふるさとの森を豊かな姿で引継ぐために、間伐や間伐材利用など森林再生活動を続けてまいります。そして、この7年の間、クラブを支えてくださった会員をはじめ関係機関・企業・団体の皆様のお陰であります。心から感謝を申しあげるとともに、これからも一層のご支援をよろしくお願い申し上げます

**2013 年 10 月 9 日(水)**

### **緑の基本計画**

私たちが、安心して希望を抱き、学び、働き、子育てをし、介護をしていくために、行政は幅広い分野において、その都市の未来を見据えた的確な自治経営を担っていかなければなりません。少子高齢社会、国際化、地球温暖化などが急速に進展している中で、行政のその責任は高まるばかりで、それに伴う行政経費も膨らむばかりです。



そのような中で掛川市では、自治基本条例が制定され、住民の住民による住民のための行政を実施して行くこととしています。そして、このたび、未来のための緑をどのように維持して守っていくのかという「緑の基本計画」の策定が始まります。

行政に多くの期待や要求が集まる中で、何よりも優先すべきは、安心安全な都市づくりだと思います。そして、地球温暖化対策の必要性は、一般市民が認識するよりも深刻な状況にあることを、行政は市民に対してしっかりと説明しなければいけないと思います。そのうえで、市民と行政が一体で進める「緑の基本計画」を策定してもらいたいと思います。

きょう、掛川市の「緑の基本計画策定ワーキンググループ」に招かれ、時ノ寿の森クラブが進めている森林再生活動の話をさせていただきました。森林は、掛川市の唯一無二の財産です。森はあらゆる生物の命の源と言われます。先人たちが築いてくれた森林を生かした都市づくりは、掛川市にとって焦眉の急だと思います。

**2013 年 10 月 10 日(木)**

### **49 年前の「10 月 10 日」を想う**

今日 10 月 10 日は、49 年前に開催された第 18 回オリンピック東京大会の開会式の日です。当時私は、小学校 5 年生でしたが、我が家のあった大沢集落（時ノ寿の森のある廃

村集落)には、まだ村を去る家はなく、12戸・60人以上が明るく元気に暮らしていました。そんな山村集落でしたが、東京オリンピックに合わせて全国に普及し始めたカラーテレビが、集落内の1軒の家に入り、村中の人々がその家に集まって五輪の開会式の模様を見たことを覚えています。

そして、あれから49年の歳月が流れ、7年後には再び東京でオリンピック・パラリンピックの開催が決定されているのです。この半世紀に発達した物ごとは、あまりにも多過ぎて言葉になりません。

しかし、物ごとの発達以上に、人間としての心を失ってしまった人の多さに背筋を寒くするこの頃です。人が人を恋し、愛するということは、人間として基本的な感性であると思いますが、その恋や愛は、持続することができなくて、別れるという結末になることも、人間の生きる営みの一つであると思います。感性ではない別れに出会ったときこそ、人間は理性という力によって自らの感情をコントロールし、次なる喜びの感性を求めて生きて行くのではないのでしょうか。

一昨日に東京で起きた殺人事件のような出来ごとが、珍しくなくなってしまった今日について、社会全体が真剣に考えなければいけないと思います。7年後の2020東京オリンピックでは、選手だけではなく、日本の若者たちすべてが、心の底から喜びを分かち合えるようなオリンピックにしなければいけないと思います。そして、そのことに国民みんなが努力して行かなければいけないと思います。

写真は、未来のために環境保全への取り組みを推奨するグリーンチャレンジデーの一コマです。10月6日撮影、新宿御苑にて。



## 2013年10月14日(月)

### 川内村植樹祭は原点

今年で第4回になる川内村の植樹祭が、熱き川内村の皆様の御努力により、昨日行われました。今年も、川内村民の「故郷の山々を未来に向けて守っていかう」という真摯な気持ちに共感した支援者が、国内外からたくさん集まりました。福島県内の多くの関係団体をはじめ、茨城県でいのちの森づくりを長く続けているNPO法人地球の緑を育てる会、



わが時ノ寿の森クラブ、個人で応援している方々、さらにはドイツやロシア、アメリカなど世界からのボランティアまで幅広い人たちでした。主催者として遠藤村長さんは、震災後の厳しい状況の中でも、川内村の大切な財産である森林を守っていくために、いのちの森づくりを継続して来てくれた川内村民や支援者に感謝の気持ちを述べられまし



たが、遠藤村長さんの実直な「村への熱い想い」が、村民の皆様や全国の支援者たちを動かす原動力になっていると、私は感動しながら挨拶を聞きしました。

ちょうど1年前の10月27・28日、川内村の皆様を掛川市にお招きさせていただきましたが、その際に参加くださった猪狩副村長さんや村民の皆様より、あの時のことを大変喜んでくださいました。そして、今年の3回目植樹祭の時よりも着実に、村民の皆様や村のそこかしこに明るさや活力が増していると感じられたことは、本当にうれしく思いました。村の復興に向けて具体的な事柄を洗い出せば、困難で途方に暮れるようなことばかりだと思います。しかし、村民の皆様と行政が一体となって前向きに進んでおられることに、心から敬服してしまいました。

このような姿を見れば、大災害に遭遇していない都市の課題など、市民と行政が協働すれば出来ないものはないと思いました。これからの日本の国土づくり、そして自治経営の縮図が、川内村にあると思いました。文明の進化とは裏腹に、人が水清き所に住まなくなるような国は、自然の摂理に叶った本来の国の姿ではないと思います。

片道9時間もかけての川内村植樹祭参加ですが、ここには森づくりの原点があると思いますので、今後も続けてまいります。クラブ員のみなさまお疲れさまでした。これからもよろしくお願いします。

**2013年10月21日(月)**

### **森づくりを未来につなげる交流会**

7年前に廃村からスタートした「山と海をつなぐ森づくり」ですが、多くの方々のご支援により、社会に大きく広がろうとしています。

日本財団の助成事業により掛川市で始まった「いのちを守る『希望の森』づくりプロジェクト」(市内7箇所・62300本植樹)は、回を重ねるごとに輪が広がってきました。この事業の完了によって、森づくりの輪を消滅させてはなりません。そのような思いから、19日の植樹祭終了の夜、掛川市内のホテルにおいて「いのちを守る希望の森づくり・交流の夕べ」を開催し、森づくりの輪を未来につなげようと熱く語り合いました。

その趣旨に賛同して、会場には宮脇昭先生、日本財団役員、毎日新聞社幹部、掛川市長、掛川市議会議員、行政関係者、市内企業の役員、市外からの賛同者、時ノ寿の森クラブ会員など総勢56人が集まってくださいました。大変有意義な会となりました。

森づくりこそ、すべての市民が参加できるまちづくり、人づくりではないでしょうか。集まった皆さんは、いのちの森づくりを掛川市から世界に広げようと、大いに盛り上がりました。そして、宮脇先生は、この森づくりをこれから20年計画を立て続けていまいしょうと、掛川市長・市議会議員・日本財団役員・毎日新聞幹部の方々を壇上に集め、固く握手をされました。私たち時ノ寿の森クラブは、これから息の長い森づくりにトップランナーとして走ってまいりたいと思います。



**2013 年 10 月 24 日(木)**

## **多くの方から評価の声**

時ノ寿の森クラブは、7 年前に掛川市の源流域を拠点に森林再生活動を始め、5 年前に宮脇先生と夢のような出会いがあり、以来毎年「いのちの森づくり」について先生から薫陶を受け、延べ 10 回・72300 本の土地本来の郷土樹種による植樹を実施して来ました。



源流域の森林再生活動を基盤としつつも、安心安全な国土づくりのためには、山と海をつなぐ流域全体による森づくりが必要です。そのような意味から、私たちは、一昨年の東日本大震災を契機として、全市民に森づくりの必要性を訴求するため、海岸地域や市街地においても、防災林や病院敷地、学校や福祉施設に広葉樹の苗木を植えて「いのちの森づくり」をして来ました。先週末に開催した植樹祭は、その一連の森づくりの一つの節目でした。

今回は、時ノ寿の森クラブの植樹事業に以前から共感してくれている方々をはじめ、まったく初めて参加してくれた団体や個人の方々も大勢いました。そのような中で、今回初めて参加して感動されたという方々より、とてもうれしい手紙やメールを頂いております。この場をお借りして、心より感謝を申し上げます。お一方のお手紙を紹介させていただきます。

「先般は、素晴らしい植樹祭にご一緒できたこと、心より感謝いたしております。市民の方々の様子や表情をお見受けし、掛川の植樹は日本を代表する市民参加の植樹祭だとあらためて実感いたしました。本当にお疲れさまでした。(中略) 私も、社業の植樹事業と直接関係ない立場ですが、全国の森づくりの一端を垣間見るうち、命を守る森づくりは一生の生業ごとだと、強く感じています。どこへ行っても、どんな立場でも携わることのできる素晴らしい取り組みです。海辺だけでなく、山の水源保全も含め、これからの掛川の取り組みに注目して参ります。」

**2013 年 10 月 27 日(日)**

## **里山の生物多様性を守る**

日本の季節から秋がなくなりそうな今年の異常気象ですが、台風 27 号・28 号が日本から去り、今朝はようやくヒンヤリとした本来の 10 月下旬の気候となりました。



きょうは、予定していた茶園の冬支度(ふゆしど)に妻と奮闘(ふんと)しました。5 月下旬に茶樹をリフレッシュするために思い切って刈り込んだことが功を奏したようで、猛暑(めいしょ)の夏もグングン芽(こゑ)を伸ばし、たくましい茶園に様相を変えてくれていました。これから厳しい冬を耐えるため、伸びた茶樹の芽(こゑ)を刈り込んでやる必要があるのです。2 人用の茶刈り機(ちやかりき)を妻と操り、素晴らしい茶園に変身させることができました。



異常気象とはいえ、もう10月下旬です。茶園には、子孫繁栄のための最期の営みをしているカマキリが何十匹もいました。茶刈り機の前から懸命に逃げようとするカマキリを何匹も手で捕まえ、逃がしてやりました。農薬を使わない我が茶園には、昆虫たちがたくさん命を育んでいます。このような里山の生物多様性が、日本の各地から消えようとしています。私が耕作している茶園の周囲にも、たくさんの茶園があったのですが、ここ数年の間にほとんどの茶園が耕作放棄地になってしまいました。

政府は、日本の農業に活力を持たせるために、やる気のある農業者に経営規模を拡大させる方針を本格化するようです。しかし、日本の国土には地形的に大規模化できない農地や森林が無数にあり、それらによって大切な生物多様性が守られ、健全な国土が維持されていることを、決して忘れてほしくないと思います。

**2013年11月7日(木)**

### **ブルータスよお前もか**

食材偽装が次々に明るみになる日本の有名ホテルのレストランなどである。この10年の間に、食に限っただけでも産地や賞味期限等、どれほど多くの組織的な偽装が発覚したことだろうか。そのたびに、日本の真摯な消費者たちは、一つ一つの教訓の中で、日本企業全体のコンプライアンスが高まってくれるだろうと願い、経済成長著しい中国などの製品に不信感を募らせつつ、食材の国産や有名産地の表示を信用して選択してきたに違いない。その心理を悪用したのが、今回の偽装表示による経営戦略と言わざるを得ない。なんと卑劣な経営者による悪質な経営だろう。



自動車産業も電器産業もあらゆる企業が、今年度の上期決算では過去最高益という数字を出している。「経営改革が功を奏したのでしょう」などと、その理由を語っている経営者がいるが、これらの経営者が語るべき「不都合な真実」があるのではないかと、疑いたくなってしまう。かつて、アメリカ副大統領アル・ゴア氏が書いた著書「不都合な真実」を思い出した。

ますます日本の唯一無二の国産資源「木材」によって、本物の里山資本主義経済を模索したい。

**2013年11月11日(月)**

### **全国森づくり発祥地を拓く**

#### **いのちを守る道普請**

森づくりを全国の仲間と連携して進めて行こうと、80年前に全国植樹祭が発祥した筑波山で、植林道の再生・復元作業が9・10日行われました。この道普請計画は、毎日新聞社が林野庁などと連携して、日本の森づくりを未来につなげるために、全国で真摯に森づくりに取り組み、また応援する仲間たちを、森づくり発



祥の地「筑波山」に集結させようと企画してくれたものでした。この趣旨に賛同した素晴らしい仲間 30 数名が集まりました。川内村のみなさん、地球の緑を育てる会のみなさん（地元主催者としてお世話になりました）、東京農大学生諸君、コタロー劇団若者たち、そしてわが時ノ寿の森クラブです。

わが時ノ寿のオレンジヘル軍団は、80 歳になる天野御大を筆頭に日ごろ時ノ寿で鍛えられた山師 6 名と、使いこなしたチェーンソー 2 台の編成でした。朝 4 時に出発して、午前 10 時の筑波山ふもと集結に間に合うことができました。趣旨に共感して自主的に参加してくれたクラブ員の姿勢に感謝感激です。初めて出会う人がほとんどの中で、謙虚な中にも今までに経験した「時ノ寿流」の山仕事技術を随所に発揮してくれました。作業が始まるまでは、あそこまで本気の力を出すとは、私をはじめクラブ員皆が思っていなかったに違いありません。しかし、いざ作業が始まると、時ノ寿のメンバーは水を得た魚のように筑波山の道普請作業に溶け込んでいきました。気が付いたら、作業終了後には山道を数百メートルも登って帰らなければいけないことを忘れ、作業で力を出し切っていました。これほどまで時ノ寿のメンバーを本気にさせてくれた全国の森づくりの仲間たちの友情、絆の素晴らしさに、私は感激してしまいました。

たった 2 日間でしたが、昼は山仕事に精根使い果たし、夜はコップ酒を傾けながら森づくりの夢を語り合った素晴らしい皆さんに心から感謝を捧げます。本場ダイコン踊りを一緒に踊った「東京農大諸君」、そして子供たちに森づくりを通して豊かな心を育みたいと熱いメッセージと一緒に唄ってくれた「メダカのコタロー劇団の若者たち」よ、勇気と自信を持って、自分に正直に進んで行ってほしいと願います。

未来の子供たちのために、このつながりをいつまでも大事にしていきたいと思います。

## 2013 年 11 月 16 日(土) 小学生と一緒に森づくり

森づくりは、年齢も性別も問わずあらゆる人が参加でき、いつでも、どこでも、だれでもできる「豊かな地域づくり」の具体例です。掛川市の森づくりが、全市民運動に広がっていったほしいと願っています。今年からは、掛川市教育委員会と連携して市内の小学生と一緒に、ドングリ拾いから植樹までの「海を守る植樹教育事業」をスタートさせました。



この事業には、掛川市内の第二小学校、千浜小学校、横須賀小学校の児童たちが参加しています。掛川市には山も海もあり、海岸から源流域までは直線距離で 30 km 以上離れていて、千浜小と横須賀小は海にほど近い地域、第二小は内陸の市街地に立地しています。地理的な違いによって地域の山や川など地形に変化があり、それぞれ地域に育っているドングリの木の分布にも変化があります。このように掛川市の海から山、そして町に生活する子供たちが、地域の現状を知りながら、安心して暮らせる地域づくりにとっては森が大切であるということを、ドングリ拾いから苗木を育て、地域に植樹すること通じながら学んでくれたらいいなと思います。



先週は、それぞれの小学校でドングリ拾いを行いました。海岸地域では、ウバメガシ、シラカシ、スダジイなどのドングリを、また内陸の鎮守の森ではアラカシ、スダジイ、コナラなどのドングリを拾いました。子供たちは、木の種類によって形や色などが違うということ、そしてドングリは虫たちも大好きだということを知ってくれたでしょう。

子供たちと一緒にドングリを拾い、苗木を育てながら、地域の森が荒廃していることや森の大切さを学んでいきます。地域の大人も森林を見直すきっかけとなり、森づくりが掛川市全域に広がってほしいと思います。

**2013 年 11 月 17 日 (日)**

### **山を再生するとは**

私たちの森林再生活動は、山村文化を現代に継承し、人々の生活の中に生かしてもらうことです。地域の経済活動から忘れられた森林ですが、地球温暖化の防止、大雨や地震による自然災害からも被害を小さくするなどの公益的機能を持っています。また広葉樹は、伐採しても 15～20 年後には成長して薪や木炭の原木に利用できる優れた資源です。このような点に着目してもらうためには、地域の山村や森林へ多くの人に来てもらうことが、まずは出発点です。そのようなことから、私たちの活動は、山村や森林の原点である源流域に主軸を置き、廃村集落跡を山村文化の交流拠点にしたいと思っています。



そのために、山村が栄えていたころのように、谷間の山村に少しでも日照時間を増やそうと、山の麓や南側の尾根筋などで大きく成長してしまった人工林や自然林を伐採しています。森づくりは、植樹することだけでは成り立ちません。原生林のように 200 年も 400 年も人の手が入らずに維持していく森林があれば、人間の生活と密着した里地里山のように伐採と植林を適度に繰り返しながら維持していく森林もあります。

写真は、廃村の一角に建設中の活動拠点です。土地の木材で、伝統的な工法で造っています。今注目してほしいところは、外壁です。伝統的な土佐漆喰によって塗られています。写真では、土色をしています。これが時間の経過とともに真っ白に変化していくのです。めったに見ることのできない左官職人の見事な土佐漆喰塗りを、ぜひ見ておいてください。

**2013 年 11 月 20 日 (水)**

### **働くことの尊さ**

今年も、あと 10 日で師走を迎えますが、今夜のテレビニュースでは、今年の流行語にノミネートされた語句が発表されました。時の流れる速さに驚いているのは、私だけではないでしょうが、サラリーマン生活を卒業する日が近づいている私の場



合は、とりわけです。

うれしかったことも、つらかったことも、時々いろいろな出来事が思い出されてきますが、健康でここまで働いて来ることができたことが何よりも幸せなことだと、自らに、そして父母や兄弟に、妻や子供たちに感謝の気持ちがこみ上げてきます。

人は、生まれながらにして身体的に、また知的や精神的に障害を持っている方が、社会にはたくさんいます。障害のある方が社会に参加することは、現代社会において特に重要視されています。国や行政の福祉政策も進められてきていますが、現実には障害者のみなさんが個々の特性を生かしながら一生懸命に働けるという場合は、大変に少ないという状況です。

今、時ノ寿の森クラブでは、掛川市内で始まった「いのちを守る希望の森づくりプロジェクト」において、障害者のみなさんの労力を育樹活動に発揮してもらっています。中東遠総合医療センターの23000本の植樹地では、毎週水曜日と木曜日の午前中、市内の障害者施設利用者のみなさんが元気に草取りをしてくれています。作業を終えたときのみなさんの満足そうな笑顔を見ると、働くことの尊さを痛感します。

**2013年11月24日(日)**

### 「ぼんやり」の価値とは

時ノ寿の森クラブの森林再生活動の原点には、森を楽しむことがあります。汗と泥にまみれ、危険もあるような山仕事で、どうして楽しくなるのかと疑問があるかもしれません。しかし、森だからこそ、大変な活動であっても楽しむことが可能ではないかと、きょう時ノ寿の森でゆったり、おおらかに辰濃和男さんの「ぼんやりの時間が尊い」という話を聞いていたら、そう思えました。



NPOスローライフ掛川のみなさんは、経済優先の時代の中で失ってしまった大事な人間としての生き方を考え直そうと、社会に提唱してから10年になるそうです。そんな節目を記念して、私たち時ノ寿の森クラブと親交させていただいている辰濃和男から、「ぼんやり」の時間が人間にとってとても大切であるという話を、あらためてゆっくりと聞いてみたいということで、本日時ノ寿の森で実現しました。

辰濃さんは、今から20年余前に「ぼんやり」の時間を体現される場所として最もふさわしい場所と思われ、時ノ寿の森のある掛川市倉真の大沢集落廃村跡の古民家を選びました。そして、その古民家を「らんだ庵」と名づけられ、一年のうちに何度も「山隠り」をされ、「月の明かりがこんなにも明るいのか」ということに気付いたそうです。

山には、そういうことを感じさせてくれるものがあるんですね。辰濃さんからお聞きした1時間半の話は、現代に生きる私たちがしっかりと心に刻み、物事の価値観や判断を決めるときに一呼吸おいて、思い出したいことばかりでした。「人間が人間として生きていくためには、都市が中心ではなく森が中心です。ですから日本の中心である森を守っている時の寿の森クラブが、これからみやびやかに、ふくよかになっていくことを祈っています」と結んでくれました。



2013 年 11 月 25 日(月)

## ぼんやりから生まれる文章とは

昨日の辰濃和男さんの「ぼんやり論」を聞いた人は、これほど心をふくよかにしてくれる辰濃さんは、どんな本を書いているのだろうと興味や魅力を持たれたに違いありません。参加者の何人かは、「四国遍路」「ぼんやりの時間」「歩けば風の色」「文章の書き方」「太古へ」など多数の著書の中から選ばれ、購入して帰りました。私も、今までに辰濃さんの著書は大体読ませてもらっていますが、これほど美しい物事の表現が他にあ



るだろうかと感動しました。また、読み終えたら無性に「自分を見つめる旅」に出たくなってしまう、仕事のやりくりをして四国へ「歩き遍路」に行ったこともありました。辰濃さんの「文章の書き方」は、日本語の最高の教科書だと思いますが、何度読んでも文章だけは上手になりません。

そんな想いを巡らせながら、著書「ぼんやりの時間」の 150 ページを開き、読んでみました。その情景の美しさに憧れてしまい、そんな時間を時ノ寿の森で過ごすことを夢見てしまいました。新玉のような文章の一部を紹介しましょう。

「闇は人を思索の世界に誘う。(略)らんだ庵で、満月が近くなったとき、光を掌にあててみた。地上に五本の指の影が五本にわかれてくっきりと映った。月の光の強さに驚いた。月のない夜は、星の光が思いのほか地上を明るくするというこも、この山奥に来て知った。家のなかでは、ときどき電灯もみんな消して、廊下の安楽椅子に座ることにしている。雨戸はわざと閉めない。ガラス戸の向こうは濃い闇で、当然、その闇は家の中にも忍び込んでくる。かすかに祭り囃子の」ようなものが聞こえてくるのは、自分の心臓の音だろうか。(以下続く)」

写真は、紹介した文中に出てくる安楽椅子のある「らんだ庵」の廊下です。